

平成22年3月

自己評価の取り組み

貢川進徳幼稚園

21年度の学校評価における自己評価について、昨年度と同様に園の先生が5段階評価で記入したものを集計しました。

先生は3グループに分け、①主任グループ4人、②中堅グループ4人、③新人グループ5人で平均点を出しました。

評価項目6つについて検証結果をまとめました。

五段階評価：	不十分	1点
	どちらかという和不十分	2点
	普通	3点
	どちらかというと十分	4点
	十分	5点

I 保育の計画性（全37項目）

- 細目 i 園の教育理念・教育方針の理解（4項目）
- ii 幼稚園教育要領の理解（3項目）
- iii 教育課程の編成（5項目）
- iv 指導計画の作成（7項目）
- v 環境の構成（13項目）
- vi 保育と計画の評価・反省（5項目）

- ① グループ 4. 1点
- ② グループ 3. 4点
- ③ グループ 3. 7点

II 保育の在り方、幼児への対応（全52項目）

- 細目 i 健康と安全への配慮（8項目）
- ii 幼児のみとりと理解（13項目）
- iii 指導とかかわり（24項目）
- iv 保育者同士の協力・連携（7項目）

- ① グループ 4. 4点
- ② グループ 3. 7点
- ③ グループ 3. 9点

III 教師としての資質や能力・良識・適正（全46項目）

細目 i 専門家としての能力・良識・義務（23項目）

ii 組織の一員としての在り方（13項目）

iii 保育の楽しみ・喜び（5項目）

iv まわりを感じ取れる感性・アンテナ（5項目）

① グループ 4.5点

② グループ 3.8点

③ グループ 4.1点

IV 保護者への対応（全24項目）

細目 i 情報の発信と受信（8項目）

ii 協力と支援（4項目）

iii 守秘義務の遵守（3項目）

iv 対応上のマナー・良識（7項目）

v クレームへの対処の仕方（2項目）

① グループ 4.5点

② グループ 3.9点

③ グループ 4.1点

V 地域の自然や社会とのかかわり（全9項目）

細目 i 地域の自然・人々とのかかわり（4項目）

ii 小学校との連携（3項目）

iii 地域への開放と支援（2項目）

① グループ 3.3点

② グループ 3.0点

③ グループ 3.2点

VI 研修と研究（全38項目）

細目 i 研修・研究への意欲・態度（8項目）

ii 教師としての専門性に関する研修・研究（10項目）

iii 遊具・教材に関する研修・研究（4項目）

iv 園内の環境に関する研修・研究（4項目）

v 今日の課題に関する研修・研究（8項目）

vi 自らを高めるための学習（4項目）

① グループ 3.6点

② グループ 3. 3点

③ グループ 3. 5点

VII 外部アンケートから（郵送による回収率75%で、結果は保護者に報告済。）

年度末に行った保護者対象のアンケートから（4項目）

細目 i, してはいけない行為を適切に指導しているか

ii, 子どものよさや努力を公平に評価しているか

iii, 子どもの意欲や自信を育てているか

iv, 日々の保育に努力していると感じるか

① グループ 否定評は全体で1票。

② グループ 否定評は全体で1票。

③ グループ 特定クラスで否定評2～6票。

検証結果と改善策

今回、210項目という膨大な量について、各教諭がそれぞれ検証を行うことができた。教育を行っていく際の注意点など、再確認するものがあつたと思う。当園の教諭経験年数に分けたグループの自己評価結果では、客観的評価ではないもののベテラン教諭が概ね高得点となり、リーダーシップを発揮して保育を進めようとする意欲が伺えた。中堅の教諭にあつては、新人の時期を越えて自分を見つめ直そうとするのか、それぞれの項目において低い結果となり、指導上の困難な点など、深く考えるようになっていと感じた。新人グループは、各項目について未熟さを感じているものの、新進気鋭の教諭として自己の資質や能力に期待感を持って臨む姿がうかがえ、昨年度結果に比べて、概ね高ポイントとなった。様々な困難を乗り越えて自信につなげてほしいが、慎重さも必要である。

主任グループが昨年度よりポイントを伸ばしたのは、保育の計画性、保育の在り方幼児への対応、教師としての資質や能力といったところである。ただし、資質や能力は微増で、中堅や新人グループではポイントを下げている。大切な項目なので、対応が必要である。

年度末に行った保護者対象の外部アンケート結果については、先生に対する思いをクラスごとに伺い、肯定評・否定評に分けて集計した。ほとんどが肯定評であつたがわずかな否定評には重い意味を受け止め、改善の為の努力を行うべきと考える。ベテラングループは、安定した支持を得られていると感じる。昨年度否定評を受けた教諭については、今年度中堅グループの結果によると改善がみられる一方、新人教諭の資質向上

に率先して取り組む必要があると感じる。

自己評価のコメントからは、特に新人グループから、さらに自ら努力して各項目の要求に応えられるような教師を目指したいという前向きな記述が目立つ。また、主任グループからは計画と実践のギャップをもどかしく思い、さらには後輩の教師を思いやったりと、全体を見通しての記述が目立った。全体的に、限られた時間に対し、望むべき仕事量が多く、なかなか思うようにならないが、教師間の連携をとり個々の能力を発揮していけるよう園長の課題としたい。

具体策として、毎年夏の研修を各教諭の自由選択制で行ってきたが、22年度は全日私幼連の研修大会へ一泊二日で全員参加し、共通認識のもとで内容を深めることに努めたいと思う。また、教育相談の機会である「きらきら星の会」で、個別支援教育の充実を図るとともに、指導カンファレンスを夏の園内研修として、外部講師をお願いして実施する予定である。

園長 石川達也

22 年度 学校評価における自己評価の課題

○22 年度実施の保護者アンケートから

【年度末 3 月実施 回収率 65%】

主な指摘事項

1. 地域開放 オープン・コミュニティ・スペースとして、月 1 回のペースでつみ木広場を開催し好評。さらに、平日の 2 歳児週 1~2 回の受け入れを要望する声が複数あった。
2. 預り保育 利用しやすいよう 22 年度は、料金や時間の変更を行ってきた。午後 5 時 30 分過ぎのお預りも含めて、利用しやすくなったとの声が多かった。
3. 給食 給食に対する食への関心の高さが目立った。自園調理による手作り感のある給食を希望する声は多いが、施設の建設やコスト高などの課題は多い。
4. 英語環境 子どもが楽しみにしている「ハローでごあいさつ」。回数を増やしてほしいが、バランス良く無理なく親しめる環境を希望する声があった。

○22 年度の様々な指摘を踏まえ、今年度の自己評価については、具体的な展開に結びつけるようまとめることにした。23 年度的主要取り組み事項を次の 5 点とする。

1. 地域開放
2. 預り保育
3. 給食
4. 英語環境
5. 個別の支援教育

○具体的な進め方の見直し

1. 地域開放 今までの「わくわく幼稚園」としての計画は、イベント的な開放であった。これを継続しつつ新たに「おひさまクラス」を立ち上げる。
未就園児を 10~15 人位で 1 クラスとし、曜日ごとにグループをつくり、幼稚園のクラス的雰囲気登園してもらおう。月に 2 回程度開放していきたい。
次に、「オープン・コミュニティ・スペース」として楽つみ木広場を定期的実施している。地域の方に呼びかけを積極的に行い、9,000 個のつみ木を使って、幼稚園のホールで月 1 回程度ファシリテーター（主導者）を招き実施したい。

2. 預り保育 通常保育日の午後 3 時 30 分～5 時 30 分と、希望者午後 7 時までのお預りは継続。

夏休み、冬休み、春休みの午前 8 時 30 分～午後 5 時のお預りも継続する。

利用料金は、兄弟姉妹で利用しても一人分とし、長期休みは小学校低学年まで受け入れて子育て支援を行う。

3. 給食 食の安全安心に関する各家庭の思いは様々であり、給食回数を選択制にすることで、対応できる部分があると思う。

また、給食の量や質への希望を可能な範囲で実現できるよう、委託先と調整する。

みそ汁やスープ等の汁物が配膳出来ると良いと思う。

4. 英語環境 週 1 回月曜日にウィル先生による英語レッスンの時間がある。歌やゲームで英語に親しんでいる。今年度は、さらに金曜日にクリス先生と一緒に生活する時間を予定している。クラスに入って給食も一緒に食べ、一緒に学ぶ。

5. 個別の支援教育 特別支援教育の考え方は、すべての子どもの個別の支援教育に通じるものがある。一人ひとりへのきめ細かい指導が大切である。

きらきら星の会で保護者の情報交換の場をつくり、きらきら星通信で情報提供を行っている。さらに、23 年度新たに言語発達についての相談の場を園内に開設したい。

以上、今年度の重点課題についての計画を具体的に示した。教職員の視点も合わせ子どもたちの生活が、豊かに展開されるよう進めていきたい。

園長 石川達也

23 年度 学校評価における自己評価

23 年度の自己評価について、全日私幼連編の 210 項目評価を各教職員に回答してもらった。

項目ごとに○×で自己評価し、自らの保育を振り返る目安とした。

傾向としては、自らの到達点・満足度をどこに設定するかにより、大きく結果が変わってくるが、5 年以上のベテラン教師になると、常に高い意識を持って保育にあたろうとするために、自己に厳しい課題を設定することがうかがえる。

若手の教師にも問題意識を持って保育に取り組もうとする姿は、感じられるが、見過ごしてしまう項目が無いよう、保育を振り返る環境の整備に今後とも園として取り組みたい。

例えば、保育の在り方、幼児への対応の中に、幼児のみとりと理解の項目があったが、○幼児の話をよく聞いたり、言葉にできない思いやサインを受け止めるようにしているかとの設問がある。勿論これに不可の自己評価をつける教師は無いと思うが、その中身を考えると、どこまで個々に対応し、どこまで受け止められているかということになる。自己の目標を様々な項目に照らし合わせて、意欲的な保育に結びつけるような教職員の研修を進めたいと思う。

園で研究課題を設定して進める内容としては、今年度も特別支援教育の理解に重点を置くことにした。来年度にむけてはさらに、絵画指導法について外部講師を招きながら全教師で研究し、絵を描く楽しさが幼児に伝わるよう指導法を学ぶことを加える予定である。

今年度の保護者アンケートは 3 月 1 日に実施した。

回答は郵送による無記名方式で、回収率は 53.7%だった。その中でクラス名の記入については、およそ 70%の保護者が記入していた。

自由記述欄では、家庭と園との連携の仕方や、行事の日程、担任としての心構えについてなどの意見や感想をいただいた。

改善を要するものは、可能な順に対応し、従来の教育計画と合わせて実行に移したいと思う。

園長 石川達也